



ビューローベリタス
協力検査会社/外部個人検査員等向け
労働安全衛生・環境ハンドブック

グループQHSSE

VERSION	DATE
VERSION 09	OCTOBER 16, 2023

PUBLIC INTERNAL RESTRICTED SECRET

X



BUREAU
VERITAS

Shaping a World of Trust

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

目次

1	ビューロー・ベリタスの紹介	3
1.1	私たちの使命とバリュー	4
1.2	3つの絶対的優先事項	5
2	安全基本規則と安全に関する基本的な事項	6
3	倫理規定	7
4	HSW (健康、安全、セキュリティ、福祉) と環境に関する理念	8
5	健康、安全、セキュリティ、環境 (HSSE) の危険源とリスク	9
5.1	運転	10
5.2	危険なエネルギーの制御 – ロックアウト/タグアウト	14
5.3	転倒・転落の防止	16
5.4	閉鎖空間への進入	18
5.5	吊り荷	22
5.6	マニュアルハンドリング (人力作業)	23
5.7	危険有害性物質	25
5.8	動線上の危険	27
5.9	機械からの保護	28
5.10	セキュリティ	29
5.11	職務への適合性	30
6	集団用保護設備および個人用保護具	31

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

6.1	集団用保護設備	31
6.2	個人用保護具 (PPE)	32
6.2.1	目の保護	33
6.2.2	頭部の保護	34
6.2.3	足の保護	35
6.2.4	手の保護	35
6.2.5	聴覚保護	37
6.2.6	落下防止	38
7	現場で	39
7.1	作業の準備	39
7.2	現場に到着したら	39
7.3	危険源を見つける (安全のための 2 分間)	40
7.4	工作中	40
7.5	作業終了後	41
7.6	緊急時または怪我の場合	41
8	同意書	42

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

このハンドブックは、現地の法律、ビューロー・ベリタス、および顧客の期待の範囲内で業務を行うために役立つガイドとして作成されています。協力検査会社/外部個人検査員等としてサービスを提供する前に、このハンドブックを読み、理解と同意を確認する必要があります。

定義:

協力検査会社/外部個人検査員等とは次のとおりです:

協力検査会社等

協力検査会社等とは、ビューロー・ベリタスが顧客と契約したサービスの一部またはすべてをビューロー・ベリタスのために実行する組織です。通常、これらの組織の性質と規模を考慮すると、協力検査会社等は自律的な方法で運営されています。

外部個人検査員等

外部個人検査員等とは、独自の立場で活動する人、またはビューロー・ベリタスと協力する契約を結ぶ有限会社（フリーランサー）として行動する人です。この個人はビューロー・ベリタスに雇用されていません。外部個人検査員等は、ビューロー・ベリタスの指示および標準操作手順に従うものとします。これらの組織の性質と規模を考慮すると、多くの国ではビューロー・ベリタスが業務の実行方法について直接指示を与えることができます。

このハンドブックを読み理解できましたら、最後のページに署名し、その写しをビューロー・ベリタスの担当者に返送してください。この署名済みの同意書が返送されるまで、あなたにはビューロー・ベリタスで働く権限がありません。

1 ビューロー・ベリタスの紹介

ビューロー・ベリタスは試験・検査・認証（TIC: Testing, Inspection, and Certification）のグローバルリーダーです。1828年に設立、現在は世界1,600以上の拠点、82,000名を超える従業員により、高品質なサービスを提供しています。

お客様の資産・製品・インフラストラクチャ・プロセスが、品質、健康・安全、環境保護、社会的責任に関する基準と規制を確実に満たすように、サービスと革新的なソリューションにより業績向上を支援します。



タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

1.1 私たちの使命とバリュー

私たちの使命:

責任ある進歩を確かなものに、信頼ある世界をかたちづくるために

サービス範囲を広げ、国際ネットワークを拡大し、世界的潮流の一步先を進み続けることで、お客様に、より良いサービスを提供し、より持続可能な未来を形成します。

ビューローベリタスでは、企業、政府、公的機関が、健康、品質、安全性、環境保護、社会的責任の面で リスクを低減できるよう支援しています。

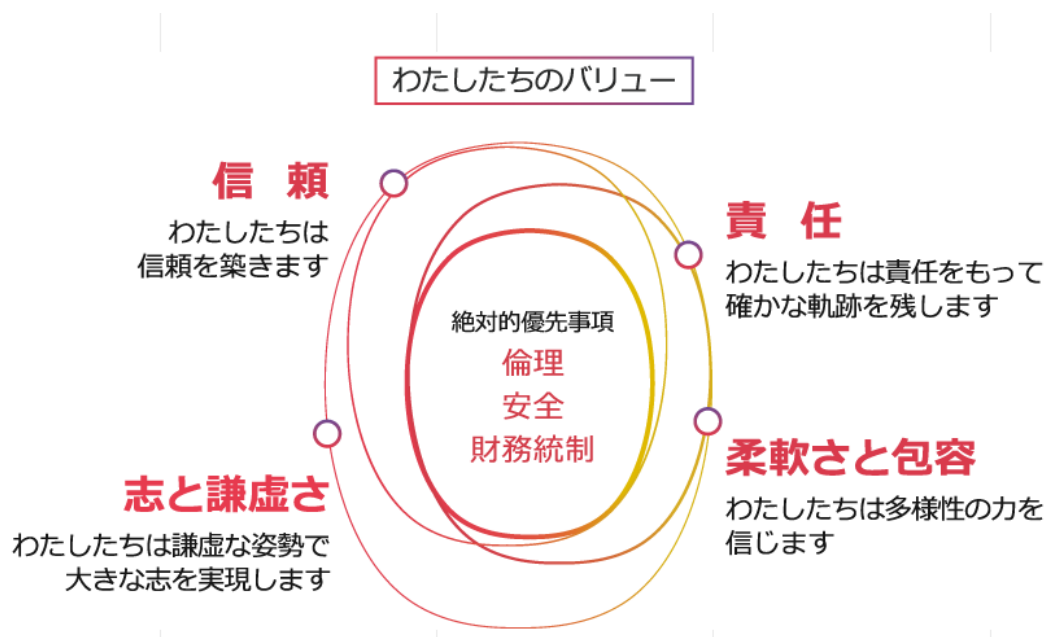
これらの課題は、社会において中心となる重要な要請です。“Business to Business to Society（社会と事業に役立つ企業）”であるためには、持続可能性において模範的であり、産業界においてロールモデルであるという責務を負います。

ビューローベリタスは、より良い世界をつくるために責任を持って行動することをコミットメントとします。

より良い職場、より良い環境、そしてより良いビジネス慣行の形成に、日々貢献します。

わたしたちのバリュー:

ビューローベリタスのカルチャーを支えるものとして、技術力・専門知識に加えて、“コアバリュー”があります。コアバリューは、ビューローベリタスの実務に根付いた3つの“絶対的優先事項”により補強され、長い歴史においてブランドと評価を守り、価値創造の原動力となっています。



タイトル :	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン :	09
		改定日 :	2023年10月

1.2 3つの絶対的優先事項



Ethics : 倫理

何世代にもわたって、公平性、真実、公正、細心の注意を払うことはビューローベリタスのコアバリューの中核であり、世界的発展の中心でした。ビューローベリタスで最も重要な資産のひとつは、独立した公平なサービスプロバイダーとしての評判です。そのため、私たちの職務遂行における倫理的行動は、ビューローベリタスの従業員一人ひとりの日々の関心事でなければなりません

Safety : 安全

ビューローベリタスの従業員は、日々世界中の顧客に高レベルのサービスを提供することにチャレンジし続けています。リスクは常に私たちの業務に内在し、私たちの安全、心身の健康に計り知れない影響をもたらします。業務を安全に遂行できない場合、いかなる業務も遂行してはなりません。ゼロアクシデント。これが、ビューローベリタスの明確なビジョンです。

Financial Control : 財務統制

財務統制は、ビューローベリタスのマネジメントがビジネスの進捗と成果を把握するために用いられ、会社業績を評価するために最も重要なツールです。

グループ組織

品質、健康と安全、環境、社会的責任のニーズに応え、顧客に最適なサービスを提供するために、ビューローベリタスは8つのグローバルビジネスを展開しています。



タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

2 安全基本規則と安全に関する基本的な事項

安全基本規則は、いかなる状況においても守らなければならない基本的なルールです。これにそむいた場合、重大な事故または死亡事故が発生する可能性が非常に高くなります。また、外部労働者においては安全基本規則の遵守が契約の必須条件となります。従わない場合は、契約の解除につながる可能性があります。

安全に関する基本的な事項は、危険を察知し、計画を立て、安全な方法で活動を実行するために不可欠なツールです。これらは安全基本規則と同様に重要であり、これらを守らなかった場合、同じような結果を招くことになります。安全基本規則と安全に関する基本的な事項があれば、ビューロー・ベリタスで働きながら正しい意思決定を行うために必要なものが得られます。

安全基本規則

命を守るためのルール



落下防止



動線上の危険



運転



エネルギーの制御



機械からの保護



閉鎖空間



危険有害性物質



吊り荷

安全に関する基本的な事項

命を守るためのツール



安全のための2分間



作業中止権限の行使



標準作業手順書 (SOP)



PPE 個人用保護具

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

3 倫理規定

ビューローベリタスは、長年にわたって培ってきた評価に基づいて世界的なビジネスを構築してきました。この評価は世界中のグループにとって最も貴重な資産の1つであり、当社のコアバリューとビジネスバリューに反映されています。これらのバリューは、全員が共有し、私たち一人ひとりが同意するものであり、ビューローベリタスの主要な求心力となっています。これらは私たちの団結力と結束力を強化し、収益性の高い成長戦略の推進に役立ちます。

お客様には、当社の倫理規定 (CoE) の原則が盛り込まれた「ビューローベリタスビジネスパートナー行動規範 (BPCC) の写しが提供されています。お客様は当社の BPCC (当社の CoE の原則を含む) に規定された要件を読み、理解し、今後遵守することを認め、署名する必要があります。この署名入りの確認書が返送されるまでは、ビューローベリタスのためにいかなる業務を遂行する権限も与えられません。"



VERSION	DATE
VERSION 02	SEPT 25, 2020

PUBLIC INTERNAL RESTRICTED SECRET



BPCC は、当社のインターネット サイトでご覧いただけます。(日本語版)

https://www.bureauveritas.jp/sites/g/files/zyfmx696/files/media/document/BPCC_2020_1_1.pdf

4 HSW (健康、安全、セキュリティ、福祉) と環境に関する理念

「私たちの目標は事故ゼロです」
健康と安全は私たちの責任です
誰もが遵守し、警戒しなければなりません
安全な行動を示し、すべてのHSSE規則を尊重します

Group Health, Safety, Security and Wellbeing Statement September 2023
Group Health, Safety, Security and Wellbeing Statement September 2023

Health, Safety, Security and Wellbeing Statement 健康、安全、安心、福祉理念 Group QHSE

Version 3
September 2023
Public



1

Environmental Statement 環境理念 Group QHSE

Version 3
September 2023
Public



Health, Safety, Security and Wellbeing Statement 健康・安全・安心・福祉理念

Our Commitment ビューローベリタスの取組

ビューローベリタスは、世界中の健康・安全・セキュリティ・福祉の面で最も認められるリーダーになることを目指します。140か国で働く82,000人以上の従業員は、最も重要な価値であり、従業員の健康・安全・安心・福祉は私たちの優先事項です。

Safety and Security 安全と安心

ビューローベリタスにおいて、安全は絶対です。経済状況、地理的条件、優先順位、外的圧力にかかわらず、私たちの最優先事項は、労働者*と顧客のために事故のない職場を確保することです。

Health and Wellbeing 健康と福祉

ビューローベリタスは従業員福祉に中核を据えています。労働者*の健康と福祉は、会社の持続的な成功に不可欠であり、従業員・顧客・株主・社会にも同様に利益をもたらします。

ビューローベリタスの多様な職種と地理的な広がりには、平等な機会を提供し、エンゲージメント（意欲、絆）を構築します。さらに、お客様と近い社会への最新技術の導入は、平等な機会を提供し、エンゲージメント（意欲、絆）を構築します。さらに、お客様と近い社会への最新技術の導入は、平等な機会を提供し、エンゲージメント（意欲、絆）を構築します。

Our Management System ビューローベリタスのマネジメントシステム

リスクを管理し、管理し、従業員と事業を行う中でリスクを管理するために必要な保護措置を講じます。すべての労働者*は、安全でない、または危険な状況に対処する権限があり、新規または既存のリスクの解決策を見出すことに誘われます。

この理念は、すべての協力会社とサプライヤー、及びビューローベリタスの合併事業に適用されます。最高経営責任者が議長を務める委員会では、当社の業績とアクションプランの有効性を定期的に監視し、当社が目標達成またはそれを超えるための必要な取組を承認し、承認します。各オペレーティンググループは、取締役会長のリーダーシップのもと、このリーダーが全ての国と組織で展開されることを確実に実行し、行動計画を実施し、高いレベルで最良の業績基準を確保するため、責任者を委任します。

Our Drivers 私たちの原動力

- 安全な職場に必要なインフラストラクチャを確保し、継続的な改善を奨励し、世界水準のパフォーマンスを達成します。
- 健康、安全、福祉の目標を設定し、世界レベルのパフォーマンス達成のための責任を組織に持たせます。
- 健康、安全、安心のマネジメントシステムを継続的に改善し、また行動計画を監視し、目標達成を確実にします。
- 経営理念を「ヘルス・ファースト」を掲げ、労働者*の健康、安全、福祉を第一の優先事項とします。
- 労働者*の健康、安全、安心の意識と安全行動を向上させます。
- 危険要因を軽減し、健康、安全、安心のリスクを減少させます。
- すべての従業員が「ヘルス・ファースト」の価値観、安全、安心の要求事項に専念します。
- 労働者*のワークライフバランスとその行動を促進するための柔軟な働き方を提供します。
- すべての労働者*が、いつ、どこで、どのように働くかについて、可能な限り最高の多様性を提供します。

*労働者は、ビューローベリタスの従業員、協力会社、および合併事業の従業員を指します。

2023年9月

最高経営責任者 (CEO) Hinda GHARBI
ビューローベリタスジャパン株式会社 代表取締役社長 外崎達人

2

Group Environmental Statement September 2023

Environmental Statement 環境理念

Our Commitment ビューローベリタスの取り組み

ビューローベリタスは、140か国に拠点をもち、82,000人以上の従業員を擁するテスト、検査、認証の世界のリーダーとして、持続可能な開発が、地球の未来にとって不可欠であると信じています。ビューローベリタスが提供するすべての事業とサービスには、環境の保護が組み込まれています。私たちは、あらゆる決定が環境や気候（温室効果ガスの排出、天然資源、水、生物多様性など）にどのような影響を与えるかを念頭に置き、可能な限り最良の方法で行動しています。

これを念頭に置いて、ビューローベリタスは次のことに取り組んでいます。

- 世界中の全組織で、すべての法的環境要求に完全に準拠することを確実にします。
- 環境教育やトレーニングを提供し、従業員に関するトピックスを日々の会議や会議の一部とした効果的なコミュニケーションに、従業員の認識の向上をはかります。
- 環境に優しい未来に向けて、従業員が実践するべき行動と努力を認め、評価します。
- エネルギー効率の良い照明の使用、つまり省エネのエネルギー消費量の削減を通じて、二酸化炭素排出量を削減します。さらに、可能な限り、私たちが使用する再生可能なエネルギー源に切り替えます。ビューローベリタスは、世界でカーボンニュートラルを目指す取り組みを掲げ、自己の環境理念を堅持します。
- 利益関係者、専門家、顧客、および一般社会と協力し、環境化する環境問題の解決策を探求します。
- ビューローベリタスの組織全体で、ISO14001 マネジメントシステム認証の適用を通じて、環境パフォーマンスを向上し、あらゆる種類の汚染を防止し続けるための努力をします。従業員の日常生活と業務での取組を実現するために、それぞれの地域で必要インフラストラクチャを確保します。
- 明確な目標を設定し、外部監督・内部監査プログラムを実施することにより、パフォーマンス改善機会を体系的に評価し、二酸化炭素排出量、廃棄物の削減、生物多様性の保護、その他の環境目標を定期的に進捗確認を行います。
- 最高経営責任者が議長を務める委員会では、業績とアクションプランの有効性を定期的に監視し、目標達成またはそれを超えるための必要な取組を承認し、承認します。
- 各オペレーティンググループは、取締役会長のリーダーシップのもと、このリーダーが全ての国と組織で展開されることを確実に実行し、行動計画を実施し、高いレベルで最良の業績基準を確保するため、責任者を委任します。

地球と未来の世代を保護するためのビューローベリタスの取組は一貫しており、すべての事業活動を通じて彼らを観望します。

ビューローベリタスの CSR 戦略は、私たちの使命と DNA に深く根ざしています。Business to Business to Society 企業として、私たちは「Shaping a Better World」(より良い世界の形成) に取り組んでいます。

2023年9月

最高経営責任者 (CEO) Hinda GHARBI
ビューローベリタスジャパン株式会社 代表取締役社長 外崎達人

2

この理念は、以下のインターネットサイトでご覧いただけます(日本語版) :

<https://www.bureauveritas.jp/about-us/shaping-better-world/shaping-better-world-policies>

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

5 健康、安全、セキュリティ、環境 (HSSE) の危険源とリスク

ビューロー・ベリタスはコアバリューとして、お客様と周囲の人々の安全を維持することを非常に重視しています。

勤務中、オフィス、ベンダーの工場、顧客先、会社の出張中、または営業用の車の運転中など、何らかの危険源にさらされたり、何らかの怪我を負ったり、危険な行動を目撃した場合には、次のことを行わなければなりません。直ちに現地のビューロー・ベリタス担当者に通知してください。

本書では、主な危険源、推奨事項、およびそれらを回避するための最低要件を詳述しています。本書は、すべての危険源に対処するものではありません。対処できない潜在的な危険源があると感じた場合は、作業中止権限を行使し、自分自身と周囲の人の安全を確保する必要があります。その後、責任者に危険を知らせ、ビューロー・ベリタスの担当者に連絡してください。

必要な場合に作業中止の権限を行使することは、ビューロー・ベリタスの安全に関する基本的な事項です



作業中止
権限の行使

常に該当する標準作業手順書 (SOP) に従ってください。これにより、安全な作業に必要な方法、順序、工具、PPEに関する情報が得られます。

適用される標準作業手順の遵守は、ビューロー・ベリタスの安全に関する基本的な事項です。



標準作
業手順書
(SOP)

「Group QHSSE 111-PO 安全行動」に記載されているように、本ハンドブックはビューロー・ベリタスにおけるHSSEの手引きとなるものです。

不明な点がありましたら、いつでも最寄りのビューロー・ベリタスの担当者にご相談ください。

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

5.1 運転



安全運転はビューロー・ベリタスの安全基本規則です

- ▶ 「Group QHSSE 106-PO 運転と移動手段」の遵守は、すべての労働者に義務付けられています。
- ▶ シートベルトを必ず使用する
- ▶ 制限速度を守る
- ▶ 食べ物や携帯電話などの電子機器に気を取られない
- ▶ 休息と十分な注意力を確保する
- ▶ 旅程管理の要件に従う
- ▶ 有効な運転免許証を所持している
- ▶ 適切な保険に加入している
- ▶ 薬物やアルコールの影響下で運転しない

本資料は、防衛的な運転方法を支援し、運転の癖、道路状況、自動車の性能について、運転手の責任意識と説明責任を高め、理解を深める目的で作成されました。

5.1.1)車の運転とは何か

道路上の危険源が原因で命を落とす人の数は世界中で毎年 130 万人を超え、1 日平均 3,500 人が死亡している計算になります。

1 人の死により家族全員が破滅的な打撃を受けることを知ったうえで、交通事故によって身近な人を亡くすことによってどれだけ多くの人が影響を受けるか想像してみてください。

労働者の死亡原因の第 1 位が道路上の危険源です。車の運転は今や仕事に欠かせないものとなっています。業務中の怪我は決してあってはならないことであり、ここでは死に至る怪我について見ていくことにします。自動車運転者の 3 人に 2 人は一生のうちに自動車事故に巻き込まれると言われており、安全運転はビューロー・ベリタスとその委託事業者にとって最優先事項です。

5.1.2)運転の危険源

ドライバーの 70%が、自分の運転技術を「平均以上」と考えています。いうまでもなく、これはあり得ないことです。この 70%のなかには、スクールゾーンでもスピードを落とさなかったり、前の車に近付きすぎたり、追い抜きのときに急に車線変更したりするドライバーが含まれると考えて、まず間違いのないでしょう。あなた自身はどうでしょう？ いずれにしても、全員に何かしら改善の余地があるはずで

以下の表は、交通事故発生シナリオをまとめたものです。

タイミング	影響
～1 秒	通常、人が危険を察知してからブレーキを踏むまでの反応時間は 0.7 秒とされています。この表は、時速 90～100km で走行中の自動車が木に正面衝突した際の反応をまとめたものです。
0.1 秒	フロントバンパーとフロントグリルが壊れ、スチール、グラスファイバー、プラスチックが木に 10mm 以上の深さまで突き刺さります。

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

タイミング	影響
0.2 秒	フード/ボンネットがつぶれて、上側に開き、フロントガラスが粉々に砕け、後輪が地面から浮き上がります。衝撃が車の後部に伝わり、大型の構造部品が瞬時に停止し、ブレーキとして機能しますが、ドライバーはそのままのスピードで前に進みます。運動の力は平常時の重力の20倍にまで増大し、ドライバーの体は前に押し出され、両脚が衝撃を受け、関節部が完全に折れてしまいます。
0.3 秒	ドライバーの体は、胴体が直立した状態で運転席から跳ね上がります。下肢がダッシュボードに押し付けられ、骨折します。プラスチックとスチールでできたハンドルとコラムのフレームが折れ曲がり、ねじれ始めます。ドライバーは、ステアリングコラムとフロントガラスにより激しい衝撃を受けている状態です。
0.4 秒	自動車の前方部分は60cmほどがすでに破壊されてしまいましたが、後方部分は時速90～100kmでなおも走行を続けています。ドライバーは時速90～100kmで走り続けているわけです。0.5トンの車体が木をバリバリと砕いて進み、自動車の後方部分は地面から上に高く浮き上がります。
0.5 秒	ドライバーの手はステアリングコラムによってほぼ直角に折れ曲がり、運動の力と重力によりステアリングコラムが体に突き刺さります。上部胴体の外傷は致命的なものとなります。
0.6 秒	ドライバーの両足は上に跳ね上がり、ブレーキとペダルは剪断され、フロアボードの金具は上方に飛ばされます。シャーシは中央から折れ曲がり、ドライバーの頭は前に進み、フロントガラスに衝突します。強力な力によりタイヤがパンクし、自動車の後方部分は後ろに跳ね返ります。これに伴い、車輪リムが折れ曲がり、後軸は真っ二つに折れてしまいます。
0.7 秒	車体はもとの形状をとどめないほど激しく損傷しています。ヒンジは切断され、ドアが勢いよく開きます。後部座席が前にせり出し、ドライバーの体は計器盤とステアリングコラムにさらに強く押し付けられ、身動きできない状態になります。 この時点で、ドライバーは瀕死の重傷を負うか、もしくはすでに死亡しています!

状況も交通事故の一因となりますが、行動が圧倒的に主要な要因です。研究によると、事故の85%はドライバーの行動に起因するものであり、状況に関連するものは15%のみであることが判明しています。

5.1.3)防止策

「自覚のある」ドライバーになるには、先を見越して注意深く考え、行動することが必要です。

ドライバーの行動は車を安全に運転・操作するうえで大きな役割を果たしますが、どのような行動をとるかは外的影響によって大きく変わってきます。

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

車について知る

車の状態に対し最終的な責任を負うのは、それを運転するドライバーです。車が運転できる状態かどうかをしっかりと確認するようにしましょう。日々の点検により、問題や潜在的問題を事前に知ることができます。毎日、運転する前に簡単な安全点検を行うのが優れた取組となります。レンタカーなど、日ごろ乗り慣れていない車を運転する場合も同様です。

基本的なチェックには、最低限、以下の事柄が含まれます。

- **タイヤ**：空気圧は適切か；しっかり固定されているか；すり減っていないか
- **窓ガラス**：視界を遮るものや汚れがないか；割れやひびがないか
- **ライト**：ヘッドライトやブレーキライトなど、すべてのライトが正常に動作するか
- **クラクション**：正常に動作するか
- **液漏れ**：液漏れが疑われる箇所や漏れ跡はないか
- **計器**：正常に動作・点灯するか、何か問題はないか
- **ハンドル**：適切に調整されているか、動きはスムーズか
- **ブレーキ**：オイル漏れはないか、摩耗の疑いのある異音はないか、停止力は十分か

「自覚のある」ドライバーになるには、**防衛的に考えて行動する必要があります**。行動は、自動車を安全に運転および操作する上で大きな役割を果たします。私たちの行動は、外部からの影響に応じてさまざまに変化する可能性があります。ただし、常に運転技術に不可欠な 3 つの動作があります。これらの動作は、「衝突防止の公式」と呼ばれます。



見る - 危険源を察知

- 道路前方 100m を観察する - 地方部では、次のカーブ、丘、高架に目をやる
- バックミラーとサイドミラーを 3～5 秒ごとにチェックする
- 運転に意識を集中させる

都市部を時速 50km で走行している場合、12～15 秒先の地点を観察するようにしましょう。これは距離にすると約 100m に相当し、ほとんどの時間、ここに焦点をあわせて運転する必要があります。建物があまりない地方部を運転する場合は、1km 先まで観察するようにします。

天候や交通状況によっては、さらに頻繁に観察を行うといいでしょう。観察のテクニックと周辺視野をフルに活用して、**3～5 秒ごとに観察を行います**。

計器類にも目をやる必要があります。**5 分ごとに計器を確認するようにするとよいでしょう**。

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

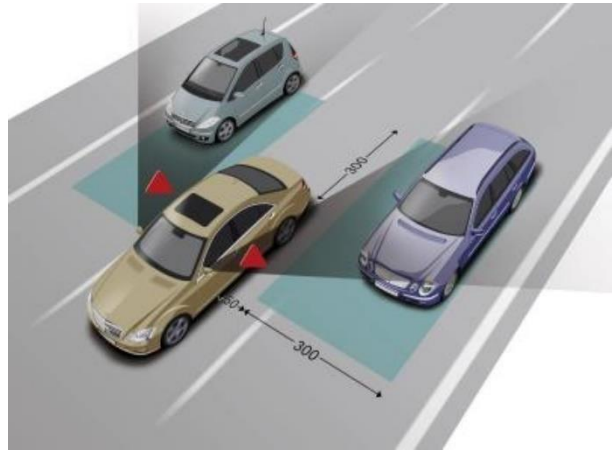
死角

バックミラーやサイドミラーを使った車の左右・後方の確認に加え、顔を動かして死角をチェックするようにします。

車には、ミラーに映らない死角がかなり存在します。このことを認識したうえで、必要に応じて、顔を動かして確認するようにしましょう。

通常、これらの死角は、車体の前後左右や、ドライバーの後方・両脇などとされています。他の車両の死角に入ると、相手のドライバーがこちらの存在に気づかず突然

車線変更し、重大な危険にさらされることになります。このような危険源を回避するには、死角からできるだけ早く抜け出す必要があります。現在、多くの新しいモデルの車両には、安全装備の一部として死角モニターやアラームが備え付けられています。これらは死角にいる車両や車線変更時にドライバーに警告する非常に効果的なツールであり、車両購入時に追加投資する価値があります。



安全な車間距離の確保

「2秒ルール」を守るようにしましょう。日中、乾燥した路面を走行しているときに、前の車が基準となるポイント（木や道路標識などの静止した物体）を通過した時点で、「いち、に」と数え始めます。2秒まで数え終わらないうちに自分の車が基準点に到達した場合、前の車に近づきすぎているということであり、車間距離を広げる必要があります。雨、雪、みぞれが降っている、夜間の走行、トラックやバイクの後ろを走行しているといった場合には、さらに1秒追加するようにしてください。



覚えておいてください - 安全運転はあなたの態度で決まります。運転中の安全な態度は、あなたが防衛的に考え、防衛的に反応し、防衛的に運転するのに役立ちます。

考える — 防衛的運転について知る

以下の防衛的運転技能について正しく理解することで、緊急事態に対応できるようになります。

- 何をすべきかを知る（対応を予測）
- ハードブレーキとソフトブレーキの違い
- スキッド（すべり）制御
- 完全衝突回避、その他
- 「もしも戦略」を使用して、運転に集中し続ける

「もしも」の例は次のとおりです。

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

- 急ブレーキが必要になったら？
- 車の前に歩行者が飛び出してきたら？
- 対向車がハイビームライトを切り替えずに近づいてきたら？
- 車の前に動物が飛び出してきたら？
- 路上で故障している車に遭遇したら？
- 緊急車両に道を譲る必要がある場合は？
- 気象条件によって視界が妨げられたり、路面が滑りやすくなっている場合は？

実行する — 状況に応じて行動する

手に負えなくなる前に、善処を尽くすようにしましょう。スピードを出しすぎると、「実行する」ための時間が大きく削られることとなります——スピードに注意しなければならないもう1つの理由がここにあります。

5.2 危険なエネルギーの制御 – ロックアウト/タグアウト



危険なエネルギーの制御はビューロー・ベリタスの安全基本規則です

- ▶ すべてのエネルギー源を特定する（電気、圧縮空気、油圧等）
- ▶ 機械や電気設備のメンテナンス時など、意図せず動き出すことが無いよう、エネルギー源はロックし、タグアウトする。（LOTO）
- ▶ 特別な許可がない限り、ロックやタグに触れたり外したりしない
- ▶ 許可され、訓練を受けた者のみがロック／タグを取り付ける
- ▶ グループ QHSSE 127-PO 危険なエネルギーの制御への準拠は、すべての作業員にとって必須である。

5.2.1) 危険なエネルギーとは何か

一般的に、電気は機械・機器の主要なエネルギー源と見られています。実際には、電気以外にも、安全性が十分ではないエネルギー源が多数あり、正しく制御されていない場合、業務時や保守作業時に大怪我の原因になったり、場合によっては死亡事故につながることもあります。さまざまなエネルギーについて理解し、機械・機器を操作する際にその存在を認識できるようにしておくことが重要です。エネルギーは動きを生み、動きが生まれれば危険が生じるということを忘れないようにしましょう。

5.2.2) エネルギーの危険源とその制御

作業の現場では、主に以下のような形態のエネルギーが使用されます。

■ 電気

使用法： 配線やコンセントにより供給される電力を、照明、機械、機器などで使用（コンデンサの残留蓄積エネルギーを含む）

危険源： 感電：火傷、四肢（指、手、腕、足、脚）の外傷

制御法： スイッチ、フューズ、ブレーカー、放電、接地

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

■ 水圧・液圧

使用法： 加圧された液体、油、水を利用して力を変位させる方法。エレベーター、フォークリフト、クレーン、建設機器のほか、静圧機器の圧力試験などで用いられる。

危険源： 液漏れ：目の損傷、四肢の外傷、機器の故障——爆発

制御法： バルブ、スイッチ、圧力計、プリーディング（放出）、換気、安全な距離の確保

■ 空気圧

使用法： 加圧された空気やガスを利用して、コンベヤー、製造機器、圧縮ガスシリンダーなどを動かす

危険源： 目の損傷、爆発、四肢（指、手、腕、足、脚）の外傷

制御法： バルブ、パイプ、ホース、ノズル、圧力計、プリーディング（放出）、換気、安全な距離の確保

■ 機械

使用法： 他のエネルギー源によって動く機械/機器の部位、残留蓄積エネルギー（スプリング、フライホイールなど）、位置エネルギー（機械部品の上昇に伴い生じる重力など）を利用

危険源： 機械に挟まれたり、巻き込まれたりすることによる四肢（指、手、腕、足、脚）の外傷

制御法： ブロッキング、再配置、スイッチ、ブレーカー

■ 熱

使用法： 加熱・冷却により、素材を処理、密封、保管（金属硬化処理、圧力低減処理、熱処理、ボイラー、食品加工など）。他の形態（変圧器、機械的摩擦、その他）の残留エネルギーを利用する場合もある

危険源： 火傷、凍傷、刺激、高体温

制御法： バルブ、パイプ、ホース、プリーディング（放出）、ブランキング（除外）

■ 化学薬品

使用法： 腐食剤、酸、洗浄剤を利用して、さまざまな素材の処理・生産を行う

危険源： 爆発や化学反応による火傷、目の損傷、外傷

制御法： バルブ、パイプ、ホース、エア抜き、ブランキング（除外）

■ 放射性物質

使用法： 電離性/非電離性の放射性物質やアイソトープを利用して、熱、反応、画像を生成させ、原子力発電、医療、工業などの用途に用いる（ガンマ線やX線を使った透過写真など）

危険源： 皮膚や眼の火傷、長期の生物学的影響（癌や死亡）

制御法： 安全な距離の確保、遮蔽、隔離

総じて、設備や機械は私たちの日常生活に不可欠なものであり、商品やサービスを効果的に生産することに大きく貢献しています。ただし丁寧に扱わないと、これらの機械に関連する危険なエネルギーが命を奪う可能性があります。常に安全な距離を保つことが重要です。

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

5.3 転倒・転落の防止

5.3.1) 転倒・転落とは何か?



FALL PROTECTION

転倒・転落は職場での負傷の主な原因であり、職場での死亡事故の原因としては4番目に多いものです。転倒は、平らな面でのつまづきや滑りから、階段、はしご、その他の高い作業面からの転落まで多岐にわたります。

5.3.2) 転倒・転落の危険源

転倒・転落は次のような理由で発生する可能性があります。

- **滑りの危険源**：（水、油、薬品などで）濡れた床、（ワックス、タイル、金属などによって）滑りやすい床
- **つまづきの危険源**： 不適切な場所に物が置かれている、床の上に道具/機器が置かれている、コード、ホース、段差のある床、床に穴が開いている、階段や手すりに欠陥がある
- **はしご**： 欠陥がある、誤った使い方
- **足場**： 保守不全、落下防止措置がとられていない
- **高所作業床**： 整理整頓がなされていない、ガードレールの不備/欠落、墜落防止用の個人用保護具が用意されていない
- **屋根**： 墜落防止用の個人用保護具が用意されていない、ガードレールの不設置

水平面での転倒は通常、以下の要因によって引き起こされます。

- **滑り**（作業を行う床面の摩擦の減少）
- **つまづき**（下半身の動きが妨げられる）
- **踏み外し**（支えるものがない場所を誤って踏む）

水平面で滑って転倒する事故では、ほとんどの場合、以下にあげる要因の1つ以上が関わっています。

- **靴**

高所作業時の適切な落下防止はビューロー・ベリタスの安全基本規則です

- ▶ グループ QHSSE 103-PO 高所作業への準拠は、全ての作業者に義務付けられている
 - ▶ 落下の危険源とリスクを特定する
 - ▶ 墜落の危険がある場合は、常に適切な墜落保護具を着用すること
- 優先順位**
- 手すり
 - 落下防止用保護具：落下を防止するための器具/墜落制止用器具
- ▶ 常に適切な状態の PPE を着用する
 - ▶ 良い習慣と安全な行動を採用する
 - ▶ 定期的なトレーニング

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

- 靴の踵と作業を行う床面との摩擦が小さい
- 靴の踵に異物が付着している
- 靴の状態（踵の高さ、踵の摩耗など）

■ 身体的状態

- 歩き方（歩幅、足取り、急ぎ具合など）
- 力の分布。歩くときの縦横の力の分布は人によって異なる
- 滑ったり転んだりする原因となり得る身体的障害

いずれの要因も滑ったり転んだりする原因となり得るものですが、リスク要因をコントロールしようとする場合、主に歩行表面に重点が置かれることになります。歩行表面には滑りを引き起こす最大の危険源があるとされていますが、同時にこれは、容易にコントロールできる要因の1つでもあります。

高所からの落下は悲劇的です。わずか4メートルの高さから落下する際の自由落下速度は、時速35km近くになります。人はこの距離を落下するとわずか1秒足らずで地面にたたきつけられます。日々、高所作業現場では転落事故による死傷者が生じています。

労働者は、適切な落下防止策によって保護されていない限り、2メートルを超える場所での作業を行ってはけません。ビューロー・ベリタスが管理する施設では、最小寸法が30cmを超える床開口部には、適切な防護措置を施す必要があります。ビューロー・ベリタスが現場を管理していない場合は、代替の転落防止措置が実施されなければなりません。いかなる場合でも、落下の危険にさらされながら作業することは認められていません。

5.3.3) 防止策

- **個人用保護具**：適切な履物、落下防止など（セクション6.2.6を参照）
- **整理整頓が行き届いている**
- **保守の徹底**：室内外の歩行スペースの修理・維持
- **自己点検**：滑り・転倒の危険源を認識し、解消するためのもっとも効果的な方法
- **フロアの開口部、ハッチ、壁のない四方の防護**：開放された四方に柵を設置する、覆いをするなど
- **階段、はしご、足場の使用前のチェック**
 - すべての固定はしごは最小限の活荷重に耐えるよう設計されており、ケージ、囲い、安全装置が必要になる場合があります。
 - 脚立には、金属製の掛け枠もしくは固定器具が装備されている必要があります。はしごは良好な状態に保たれている必要があり、欠陥のあるはしごが使用されることがあってはなりません。かならず点検を行ってから使用するようしてください。
 - 足場とその部品は、想定される最大負荷の少なくとも4倍の重さを確実に支えられるものである必要があります。

高所作業時は墜落制止用器具を着用することがビューロー・ベリタスの安全基本規則です。高所で作業する場合、協力検査会社等は独自の落下防止装置、システム、手順、教育訓練計画が必要です。このハンドブックの一般情報は情報としてのみ提供されており、協力検査会社等が法的要件を満たす落下防止プログラムを導入する必要性に代わるものではありません。

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

5.4 閉鎖空間への進入



閉鎖空間

このガイダンスは、特定の閉鎖空間に入る準備をするものではありません。閉鎖空間に入る前に、作業している施設の運営者から必ず情報とトレーニングを受けてください。施設の運営者は地域の安全対策と管理を実施する必要があります。

閉鎖空間に入る前に許可を取得することは、ビューロー・ベリタスの安全基本規則です。協力検査会社等は、閉鎖空間に立ち入る場合、独自の閉鎖空間用の機器、システム、手順、およびトレーニングを備えている必要があります。以下の一般情報は情報としてのみ提供されるものであり、協力検査会社等が法的要件を満たす閉鎖空間立入プログラムを実施する必要性に代わるものではありません。

閉鎖空間への安全な立ち入りはビューロー・ベリタスの安全基本規則です

- ▶ 常に、空気が検査され、監視されていることを確認する
- ▶ 該当する場合、エネルギー源はロックし、タグアウトする (LOTO)
- ▶ 該当する場合、呼吸装置が正しく作動していることを確認する
- ▶ 救助計画があることを確認
- ▶ 閉鎖空間監視員
- ▶ 閉鎖空間に一人で立ち入らない
- ▶ 「Group QHSSE 102-PO 閉鎖空間への進入」の遵守は、すべての作業者に義務付けられている
- ▶ 閉鎖空間の特定
- ▶ 危険を過小評価してはならない
- ▶ 自分の役割と責任を知る
- ▶ 作業方法と手順に従う
- ▶ 不明な点があれば、ビューロー・ベリタスの担当者に問い合わせること

5.4.1) 閉鎖空間とはなにか？

「閉鎖空間とは、従業員が立ち入ることができる十分な広さと構造があり、次のいずれかの特徴を持つ密閉された領域です。

- 従業員が立ち入るのに十分な大きさで構造を備えた閉鎖的な空間。その構造のため、内部および外部の空気の間には自然換気がない
- 出入り口が限定されている
- 従業員が継続的に居住できるように設計されていない (例：チャンバー、貯蔵タンク、反応槽、(大きな) 容器、ボイラー、換気および排気ダクト、下水道、トンネル、保管庫、パイプライン、貨物倉、エンジンのクランクケース、燃料タンク、二重底タンク、トレンチ、またはその囲いの性質により予見可能なリスクが生じるその他の同様の空間)」

閉鎖空間の例としては、タンク、船舶、サイロ、貯蔵庫、貯蔵ホッパー、金庫室、立坑などがあります。衣類を収納するクローゼットは、作業を行えるだけの十分な広さはあるものの、長時間滞在する設計になっておらず、出入りのための制限的/制約的な手段も備わっていないため、閉鎖空間とはいえません。

閉鎖空間とは、以下の特徴を 1 つ以上備えた空間のことです。

- 有害な空気が含まれる、もしくは含まれる可能性がある
- 立ち入った者の体をすっぽり覆い尽くしてしまう可能性のある物質・物体が含まれる

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

- 中に向かって狭まっていく壁や、下降するに従い狭くなっていく床によって、立ち入った者が閉じ込められたり、窒息したりする危険性のある内部構造をしている
- 保護されていない機械、活線があるなど、安全性や健康に深刻な影響をおよぼすことが認められるその他の危険源が含まれる

5.4.2)閉鎖空間の危険源

閉鎖空間で作業を行う従業員は、重大な危険源にさらされるリスクに直面する可能性が高くなります。空間に閉じ込められる危険性があるだけでなく、閉鎖空間での作業には、有害な空気や機械の可動部分など、危険源が常に伴います。

閉鎖空間で発生する事故は、しばしば致命的なものとなり、複数の労働者が巻き込まれてしまうケースが少なくありません。

一般的に、閉鎖空間で死亡する人の半数以上が、困難な状況に陥った同僚を助けようとして命を落とすとされています。これらは、通常、同僚の危機に本能的に反応して行われたもので、認められた救助活動ではありません。しかし、たとえ資格のある救助隊員であっても、決められた手順に従わなかったことにより命を落としたことを示す証拠が記録として残されています。危機に陥った同僚を助けたいという人間の本能は非常に強いものであり、しばしば致命的な結果を招くことになってしまいます。

最終的には、個人の安全は自己責任ということになりますが、作業者に情報を提供し、指示を行うのに必要なあらゆるリスク管理策を定める責任は雇用主側にあります。

すべての閉鎖空間を対象に、以下の4種の危険源の評価を実施することが定められています。

- **酸欠空気：** 正常な空気は、およそ21%の酸素と79%の窒素で構成されます。**空気中の酸素比率が19.5%を下回る場合は、酸欠空気と見なされます。** 閉鎖空間内の酸素レベルは、酸素の消費もしくは置換のいずれかによって低下する可能性があります。酸素レベルの低下は、他の気体による酸素置換によっても生じます。
- **酸素富化空気：** 酸素濃度が23.5%を超える空気のことです。酸素富化空気は、衣類や髪など、燃えやすい物に着火した場合に激しい燃焼を引き起こす原因となります。また、酸素富化空気によって、通常は燃えないものでも燃焼する可能性があります。
- **可燃性空気：** 通常、可燃性空気は、空気または酸素富化空気に、可燃性のガス、蒸気、塵埃が一定濃度混合されることによって生成されます。引火下限（LFL）を10%超過した可燃性ガス・蒸気や、LFLを超過した塵埃は、有害空気に分類されます。換気が適切に行われていない場合、可燃性のガスや蒸気が閉鎖空間内に蓄積される可能性があります。空気よりも重いガスは閉鎖空間の低い位置に溜まります。吹き付け塗装などの塗装作業や、可燃性溶剤を使った清掃作業によって、爆発性の空気が生成される可能性があります。**可燃性空気下では本質安全防爆機器を使用することが極めて重要です。協力検査会社等は、閉鎖空間に入る場合、独自の本質安全機器、手順、トレーニングを備える必要があります。ここで提供される情報は、協力検査会社等が可燃性空気に関連するリスクを理解し、法的要件を満たすプログラムを導入する必要性に代わるものではありません。**
- **有毒な空気：** 以下の1つ以上が原因で、有毒な空気が閉鎖空間内に発生する可能性があります。

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

- 閉鎖空間での商品保管（閉鎖空間から商品運び出す際や、残留物の清掃を行う際に、壁から有毒蒸気が放出されることがあります。換気が十分に行われていない場合、有毒蒸気が発生しやすくなります）
- 閉鎖空間内での作業（揮発性金属の溶接、閉鎖空間の塗装や掘削など）
- **機械的および物理的危険源**：次の事項が考えられます：
 - 機械 - 機械の回転部/可動部やエネルギー源によって、閉鎖空間内で危険源が生じる可能性があります。
 - 埋没 - 粉炭、おがくず、穀物などの流動的な物質に体が埋もれたり、すっぽり覆われたりした場合、それらの物質はたちまち気道に入りこみ、窒息を引き起こします。たとえば、液体に体が埋没した場合、その人は溺死することになります。
 - 内部構造 - 閉鎖空間の内部配置が原因で、人に気付かれないうちに閉じ込められたり、窒息してしまったりする可能性があります。
 - 物理的要因 - 熱、寒さ、騒音、振動、濡れた表面が事故の原因になる場合があります。すべての閉鎖空間で、これらの要因について評価を行う必要があります。

5.4.3) 防止策

閉鎖空間への立ち入り許可

業務環境の閉鎖空間については、分類に従い識別・表示を行う必要があります。閉鎖空間が見落とされていたり、新しい処理設備の設置に伴い新たに生じたりすることも考えられます。

閉鎖空間に立ち入るには、通常、許可が必要であり、一般的には拠点の運営者やベンダーがその管理に当たります。業務許可の制度は国や地域によって異なりますが、責任者によって安全であることが確認されて



いる場合にのみ空間に立ち入るようにすること、常に誰かを同伴すること、閉鎖空間への出入りを責任者に報告することが基本条件となります。疑わしい点がある場合は、かならず事前に指導を求めるようにしてください。

閉鎖空間への立ち入り許可書には、個人用保護具、検査機器、通信機器、警報システム、救助道具など提供される機器類が示され、それらを空間内で利用できるようになっています。また、立ち入り時に管理下で連絡を取り合うための通信手段について説明されているほか、特定の閉鎖空間の状況を考慮して、火気使用作業許可などの従業員の安全を確保するのに必要なあらゆる情報が記載されています。

緊急時に備え、立会者は、救助隊を呼び、立ち入らないで救助を行う訓練を受けておく必要があります。救助が必要になった場合、閉鎖空間に立ち入って救助を行うことがあってはなりません。

閉鎖空間への立ち入る前に、かならず役割や責任に応じた訓練を受けておく必要があります。

閉鎖空間への立ち入り手順

閉鎖空間に安全に立ち入り、作業を行うには、責任者によってまとめられた作業手順・方法を理解しておく必要があります。

閉鎖空間に立ち入る際の手順や自分の役割/責任について不明な点がある場合は、トレーニングの受講中、または終了後に質問するようにしてください。閉鎖空間への立ち入りの手順をしっかりと理解しておくことで、事故発生の危険性を最小限に抑えることができます。

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

現地の責任者によって、閉鎖空間への立ち入りのための手順が施設ごとに作成されますが、そこには通常、以下のような事柄が含まれます。

- **閉鎖空間立ち入りチーム：** それぞれの役割と責任に関する訓練を受けた個人のみが、閉鎖空間への立ち入りに関与することができます。
- **閉鎖空間への立ち入る目的：** 実施する作業、日時、立ち入りが許可される期間についての情報。通常、立ち入り許可は、立ち入りチームが作業を行うシフト時間にのみ有効となります。作業が次のシフトに食い込む場合、次のシフトへの移管のための手順を立ち入り許可手続きの一部に組み込む必要があります。
- **危険源：** 立ち入り許可書を通して、閉鎖空間内にある危険源について知ることができます。たとえば、空間内に有害空気が存在する場合は、その旨記載されます。
- **管理策：** 多くの場合、閉鎖空間はプロセスの一部に組み込まれており、立ち入り許可書には、閉鎖空間をプロセスから隔離するための手順が明示されます。隔離には、電力システムのロックアウト/タグアウト、パイプラインの切断/閉鎖、機器の撤去を伴う可能性があります。
- **許容される空気状況の特定：** 立ち入り許可書には、想定される酸素、可燃性ガス、一酸化炭素、有毒ガスの濃度が明示されます。

空気測定

空気測定は、密閉区域内の空気環境を知るための唯一の方法です。

- 測定は立ち入り前に実施するものとし、閉鎖空間内で作業を行っている人がいる間、継続的に行う必要があります。
- モニタリングの結果は立ち入り許可書に記載されます。

パージング（浄化）

最初の空気試験の結果が許容条件を満たしていなかった場合、閉鎖空間のパージング（浄化）を行う必要があります。パージングは従業員が空間に立ち入る前に行なわれ、質の悪い空気を取り除きます。その際、通常は新鮮な空気を使用しますが、水、蒸気、清浄液を利用して、有毒な空気や他の危険源を発生させる残留物資を閉鎖空間から取り除く必要がある場合もあります。パージングが完了したら、空気測定を再度実施し、許容条件を満たしているかどうかを見極めます。

換気

労働者の滞在中に閉鎖空間内の空気状況を許容される範囲内に保つには、換気が必要になります。外気を閉鎖空間内に取り入れる機械装置（柔軟性のある配管を備えた送風機）を使うことで、空間内の空気状況を許容される範囲内に保つことができます。空間の空気状況が許容範囲を満たしていることを確認する試験を、立ち入り期間を通して実施し、立ち入り許可書に結果を記載するものとします。

タイトル :	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン :	09
		改定日 :	2023年10月

5.5 吊り荷



吊り荷

吊り荷から距離をとることはビューロー・ベリタスの安全基本規則です

- ▶ 吊り上げられたり、吊り下げられる可能性のある荷物に近づかない
すなわち吊り荷の下への立ち入り、およびそこでの歩行・作業は禁止
- ▶ 機械（重機）の近くで作業する場合は、必ず視認性の高いPPEを使用する
- ▶ バリケードと立入禁止区域の設定に従う
- ▶ 吊り上げ作業を行う領域がはっきりと示されていることを確認
- ▶ 吊り上げ作業が安全かどうかを常に確認する
- ▶ 定期的にトレーニングを受け、オペレーターとのコミュニケーションの方法を知る

5.5.1) 吊り荷とは何か

作業現場では、重い荷物を運んだり吊り上げたりといった作業が頻繁に行われます。クレーン、ホイスト、ブルドーザーバケット、フォークリフトなどの吊り上げ装置を使って荷物を運ばなければならない場合、これを吊り荷と呼びます。このような重い荷物の吊り上げが行われる労働環境には、重大な危険源が多数存在することを常に心に留めておくことが重要です。実際、これらの荷物はその重さゆえに、移動時の制御が容易ではありません。そのため、吊り荷が制御不能な状態に陥った場合、大怪我や、場合によっては死亡事故につながる可能性があります。



5.5.2) 吊り荷の危険源

吊り荷に関連する危険源には主に以下の3つがあります。

- **吊り荷の落下：** 吊り荷が吊り上げ具から外れて、地面に激突する
- **吊り荷の揺れ：** 吊り荷が揺れ動き、巻き添え被害をもたらす
- **吊り荷の衝突：** 吊り荷を運んでいる最中に障害物にぶつかり、中身が落下する

吊り荷に関連するこれらの危険源は、以下の1つ以上が原因となり発生します。

- **吊り上げ装置：**
 - 吊り上げ装置の整備不良や異常
 - オペレーターのミスや不注意
 - 吊り上げ装置の過負荷
- **荷物の準備：**
 - 荷物の梱包が適切でない
 - 吊り上げ装置への装着が適切に行われていない
- **作業慣習：**
 - 吊り上げ作業時に吊り荷の下に立つ



タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

- 吊り荷の通過する場所を横切る
- 吊り上げ装置の使用法に関するトレーニングの不足

5.5.3) 防止策

吊り荷に関するリスクを最小限に抑えるには、以下の勧告と指示を実践するのが得策です。

- **吊り荷の下に立ち入らないようにする：** たとえ吊り荷の下で作業をするように指示されたとしても、リスクを冒すことがあってはなりません。
- **かならずトレーニングを受ける：** 吊り上げ作業時には、規定の適切な手信号を使ってオペレーターとコミュニケーションをとるようにします。
- **対象領域がはっきりと示されていることを確認する：** 吊り荷の通過経路の下を人が横切ったり、立ち入ったりすることがないように、吊り荷を行うゾーンの下とその近辺がはっきりと識別できる状態になっていることを常に確認するようにします（最低でも、吊り荷の通過経路の周囲 3m）
- **吊り上げ装置の保守を確実に行う：** 吊り上げ装置が良好な状態に保たれるように注意し、オペレーターが最大吊り上げ荷重の制限値をしっかりと守っているかどうかをチェックします。
- **吊り上げ作業が安全に行われるようにする：** 吊り上げの前に、オペレーターにより荷物が正しく装着・梱包されている必要があります。自身の業務環境の近くで行われる吊り上げ作業が完全に安全であることを確認するようにしてください。吊り下げ作業時には、近くの吊り荷が揺れ動いていないか、常にチェックするようにしましょう。

吊り荷に関連する事故は重大なものになる場合が多く、死亡事故につながるケースもあることを、常に心に留めておくようにしましょう。吊り荷の下に立ち入ったり、そこで作業をするようなことがあってはなりません。

5.6 マニュアルハンドリング（人力作業）

5.6.1) マニュアルハンドリングとは何か

マニュアルハンドリング（人力作業）とは、手や体の力を使った荷物の操作を必要とする作業のことであり、手や体の一部を使って、荷を持ち上げる、押す、引っ張る、運ぶことなどがこれに相当します。

マニュアルハンドリングはすべての従業員が関わる可能性のある作業です。大怪我につながることは滅多にありませんが、業務中のもっとも一般的なリスクの 1 つに数えられます。

5.6.2) マニュアルハンドリングの危険源

不適切なマニュアルハンドリングは筋骨格系の障害を引き起こす可能性があります。障害の発生には、マニュアルハンドリングの種類と作業の進め方が直接影響してきます。

以下のような場合、リスクにさらされる可能性があります。

- **重すぎる荷物を取り扱おうとする**
- **マニュアルハンドリングを何度も繰り返し行う**
- **快適ではない状況での作業**
- **視界が悪い場所や混雑した場所での作業**

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

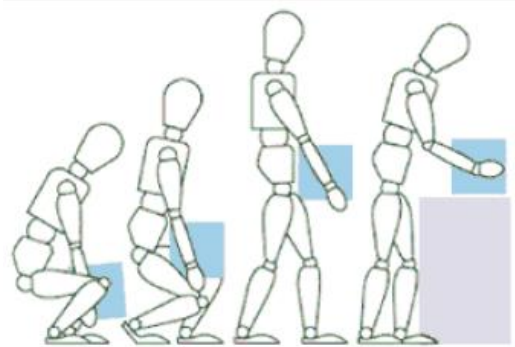
筋骨格系障害の主な症状として腰痛があり、回復不能になったり、一部労働不能状態を招いたりする可能性があります。

しっかりとつかむことのできない荷物の取り扱いなど、危険な状況はほかにもいくつか考えられます。このような場合、荷物を持つことができずに落としてしまい、本人や近くにいる同僚が負傷する危険性があります。

5.6.3)防止策

怪我を防止するには、マニュアルハンドリングのリスク評価を行い、回避策を見つける必要があります。

- **重い荷物を持ち上げないようにする：** マニュアルハンドリング作業で重い荷物を運ぶ場合は、台車などの装置を利用するか、同僚と一緒に運ぶようにします。
- **作業環境の設計やレイアウトを改善し、作業がしやすいようにする：** こうすることで繰り返しの作業がしやすくなり、より快適に作業を行えます。
- **手袋を着用する：** 手袋を着用することで、荷物をしっかりとつかめるようになります。
- **正しい姿勢で作業を行う：** 地面に置かれた荷物を持ち上げる場合、両膝を曲げ、背中をできるだけまっすぐ伸ばすようにします。
- **作業環境をきれいに片づけ、視界を確保するようにする：** 周囲をきれいに見渡すことができる状態で、途中で障害物がなければ、リスクを伴わずに作業を進めることができます。 マニュアルハンドリング作業を行う必要がある場合は、とにかく、背筋を正しく伸ばすことが基本となります。



- ▶ 作業環境をきれいに片づけるようにする
- ▶ 適切かつ快適な姿勢で作業を行う
- ▶ 身体状態に応じた荷物のみを取り扱うようにする
- ▶ 必要に応じてつり上げ装置を利用する

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

5.7 危険有害性物質



危険有害性物質

危険有害性物質の適切な取扱いはビューロー・ベリタスの安全基本規則です

- ▶ 危険物（腐食性、引火性、毒性）の危険性、管理方法、取扱いを誤った場合の結果を知る- SDS はすぐに入手可能な状態にする
- ▶ 危険物は適切に識別・保管されている
- ▶ 適切な訓練と保護具なしに、危険な物質を取り扱わない
- ▶ 偶発的な流出や汚染に備えて、緊急対応計画を策定し、テストする

化学物質は、工業、農業、運輸の分野で広く用いられており、正しく使用すれば、多くのメリットをもたらします。実際、医薬品、化粧品、食品保存料に化学物質を使用することで、生活の質を高めることが可能です。

しかし、化学物質には危険な側面もあります。適切に管理しなければ、環境汚染や安全障害を招きかねません。WHO（世界保健機関）の2011年のデータによると、毎年47,000人が化学物質の中毒により命を落としているということです。

5.7.1) 化学物質の危険源

ヒトの健康に影響を及ぼす可能性のある化学物質の危険源には以下の2種類があります。

- **慢性暴露**： 低濃度の化学物質（CMR（発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質）など）に定期的にさらされることによって起こります。これは、もっとも一般的な化学物質の危険源です。長期間このような状態が続くことで、がんなどの重篤な病気に罹患する可能性があります。
- **急性暴露**： 高濃度の化学物質に短期間さらされることによって起こります。危険の深刻度は主に化学物質の特性によって変わってきますが、火傷や肺の損傷など、さまざまな傷害が起こる可能性があります。

いずれのケースも、危険源の深刻度は以下の要因によって変わってきます。

- **化学物質の特性**（刺激性、毒性、発ガン性、その他）
- **暴露経路**：
 - 気道
 - 消化管
 - 皮膚吸収
 - 注入
- **露出量**
- **暴露を受ける人**

また、化学物質は以下のような不安定さのリスクをもたらす可能性があります。

タイトル :	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン :	09
		改定日 :	2023年10月

- **異なる化学物質同士の不適合性 :** 化学物質を混合する場合、処理中に制御不能となり、爆発や大量のガスの放出といった危険な反応が起こる可能性があります。
- **不適切な状態で保管 :** 化学物質によっては、安定性を保つために、特殊な保管状態（一定の温度、乾燥度、等々）が必要な場合があります。化学物質を別の容器に詰めなおす必要がある場合は、誤用を防ぐために、ラベルを複製し、適切な容器を使用するようにします。

5.7.2)防止策

可能であれば、予防策を決定するためにリスク階層を適用することが重要です（除去、代替、工学的な管理策、管理的な対策、そして最後に 個人用保護具）。

GHS（Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals：化学品の分類および表示に関する世界調和システム）は、使用されるすべての化学物質とその環境と健康に対するリスクが記載されています。GHS には、さまざまな化学リスクに関連するピクトグラムがあります。

化学物質のリスクを知るために、取り扱う前に必ず化学品ラベルのピクトグラムを確認してください。

さらに、職場のすべての化学物質には SDS（安全データシート）が提供されます。この SDS には、化学物質の保管と使用に関連するリスクとアドバイスが含まれています。

化学物質のラベルと SDS を常に確認する必要があります。さらに、化学物質によっては、呼吸器系の保護マスクや安全メガネなどの特定の PPE が必要になる場合があります。これはラベルと SDS に記載されており、これらの要件に従うことが求められます。

世界	説明	日本(GHS)
	急性毒性	
	非常に有毒	
	刺激性	
	有毒性	
	金属腐敗性・皮膚損傷性	
	水性環境有害性	
	極めて可燃・引火性	
	可燃性・引火性	
	支燃性・酸化性ガス	
	爆発物	
	遺伝性疾患の恐れ	
	注意	
	高圧ガス	

注 意：皮膚のかぶれなど重大でない健康被害をもたらすもの

タイトル :	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン :	09
		改定日 :	2023年10月

5.8 動線上の危険



動線上の
危険

**動線上の危険から身を守ることはビューロー・ベリタスの安全基本規則
です**

必ず以下のものから身を守ること：

- ▶ 動く／飛ぶ物体または粒子、乗り物
- ▶ 火炎／熱、圧力の解放
- ▶ 適切に固定されていないため、落下の恐れがあるもの

5.8.1) 「動線上の危険」とは何か

「動線上の危険」とは、予期せず動き始めたり、エネルギーを放出したりするものによって労働者に衝突する可能性のある作業状況を指します。

重要な点は、動いている車両や設備の近くで作業している人に、何かがぶつかったり、挟まれたり、押しつぶされたりする可能性を特定することです。

可能であれば、こうした危険源を完全に排除することを第一に考えるべきですが、それができない場合は「動線上の危険」の外の安全地帯に移動することを優先してください。

5.8.2) 動線上の危険に関するルール：

動く設備（クレーンやその他の車両など）や電動の設備（回転機械、または電気あるいは加圧により動く機械など）の「動線上」で作業することは、人に衝撃を与える可能性があり安全ではありません。

以下に従ってください：

- 動いている設備や通電している装置の近くで作業する場合は、監督者または作業責任者に安全上の注意事項を確認する。
- 動いている設備に対しては監視員または責任者の指示に従う。
- 立入禁止区域への立ち入りや作業が必要な場合、安全であることを責任者に確認する。
- 走行中の車両のドライバーがあなたを視認していることを確認する。
- あなたがスーパーバイザーまたは作業責任者の場合は、次のことを行う必要があります：
- 危険な区域への立ち入りが制限され、バリケードが設置されていることを確認する。
- 許可された担当者のみが制限区域内で作業するようにする
- シグナリングの方法とコミュニケーションが全員に合意され、理解されていることを確認する
- 現場が適切に照明されていること、および/または視認性の高い衣服が着用されていることを確認する

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

5.9 機械からの保護



機械からの
保護

機械からの保護はビューロー・ベリタスの安全基本規則です

- ▶ ガードを外したり、安全回路を回避した状態で機械を操作しない
- ▶ 保守作業において、一時的にガードを取り外す必要がある場合、代替手段を用意する（LOTO）。
- ▶ グループ QHSSE 120-PO 機械からの保護の遵守は、すべての作業者に義務付けられています。

ビューロー・ベリタスの作業員として機械を操作する必要がある場合は、次の点に注意してください。

- 作業員が触れるすべての機械は、たとえ意図的または緊急の場合であっても、事故が起こらないよう適切に保護されなければなりません。
- 機械が適切に、安全に保護されていない場合は、いかなる作業も実行してはなりません。これは、ビューロー・ベリタスが所有する機械、および顧客が所有する機械、いずれにも適用されます。作業員には、必要に応じて作業を中止する権限が与えられています。
- 新しい機械を購入する場合は、安全保護要件を仕様を組み込む必要があります。機械を受け取ったら、実際の環境で使用する前にリスクアセスメントを実施する必要があります。新しい機械の使用を開始するにあたっては、その承認を文書化する必要があります。
- 既存のすべての機械は、少なくとも次のリスクについてリスク評価する必要があります。
 - ✓ 回転部品
 - ✓ ニップポイント（巻き込まれ）
 - ✓ 往復部品
 - ✓ 横方向の動き
 - ✓ 切断の動き
 - ✓ 打ち抜き動作
 - ✓ せん断動作
 - ✓ 曲げの動き
- 危険レベルが許容できない場合は、安全に使用できるよう適切な対策が講じられるまで、機械を封じ込める（ロックアウト/タグアウト）必要があります。作業員は自分たちの役割と責任を認識し、機械の使用に関する危険源とリスクについて教育を受ける必要があります。
- これらの機械に関連するリスクを軽減するには、次のような必要な管理措置を特定し、実践する必要があります。
 - ✓ ガード
 - ✓ 手順・作業指示書
 - ✓ 予防保守プログラム

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

5.10 セキュリティ

5.10.1) セキュリティ上の危険源

ビューローベリタスでの勤務中には、次の2つの主要なセキュリティリスクが存在します。

- **トラベルセキュリティリスク**： リスクは出張先の国に直接依存します。これらのリスクは、軽微な場合から政府の管理や法秩序が最小限であるなど極端な場合など様々です。
 - 暴力関連のリスク： 外国人労働者は、テロ行為や誘拐などの標的になる可能性があります。
 - 強盗・窃盗のリスク： 自分の所持品が他者の欲望をかきたてる場合があることを、心に留めておくようにしてください。
- **サイトへのアクセスのリスク**：
 - 事業所への進入リスク： セキュリティゲートによって、すべてのサイトスタッフを管理することで、不審者の侵入を回避できます。
 - テロ関連リスク： 政情の不安定な国では、事業所がテロ行為の標的になる可能性があります。
 - 強盗・窃盗のリスク： 侵入者が事業所の物品を盗んだり、機密データを窃盗/複製し、産業スパイ活動を働くことが考えられます。

5.10.2) 防止策

次のルールを常に実践する必要があります。

- **必ず旅程を作成する**： 出張が必要な場合には、「旅程（トラベルジャーニー）」と呼ばれる業務計画書が発行されます。常にこれを順守し、危険な状況を避けるようにしてください。
- **安全対策を採用し、常に自分の身を守るようにしておく**： 危険な国への出張の場合、このことが特に重要になってきます。
- **携行品に注意する**： 手荷物などの携行品に常に注意を払うことで、強盗/窃盗の被害を防ぐことができます。
- **危険な状況や暴力的な状況に近寄らないようにする**
- **パスポート（ホテルのフロントに預ける必要がない場合）および重要書類や機密書類はかならず安全な場所に保管するようにする**
- **目立たないようにする**： 目立たないようにすることで、多くの危険な状況を回避できます
- **セキュリティゲートで身分証明書を提示する**。出勤していることを証明し、退勤時間を示すために、かならずセキュリティゲートで記録を残すようにします。

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

- ▶ 「グループ QHSSE 115-PO 出張の健康と安全」および「グループ QHSSE PR-115 高リスクな目的地への出張のセキュリティ」への準拠は、すべての渡航者に義務付けられています。
- ▶ 常に危険な状況を避ける
- ▶ 個人／仕事の書類／カードを安全な場所に置く
- ▶ 個人情報・勤務先情報を不適切に提供しない
- ▶ 職場のセキュリティゲートで登録
- ▶ 旅程に従う

5.10.3) データセキュリティ

検査業務を遂行する際、検査員には通常、ビューローベリタスまたは顧客の機密情報が提供されますが、検査を実施する際、更に検査員には、ベンダー／メーカー／現地施設の機密情報に触れることとなります。

このデータ/情報は、電子形式または紙ベースの形式のいずれかとなっていることでしょう。

機密データ/情報が使用されるすべての場合において、その所有者の明示的な許可を得た上で、すべてのコピーを保持し、安全性を保たなければなりません。そのような情報は、使用される際には安全かつ確実に管理され、関連する活動が完了した際には必ず破棄（または所有者に返却）される必要があります。個人的な情報としてコピーを取り、他者と共有することは明確に禁止されています。

5.11 職務への適合性

5.11.1 職務への適合性とは何か

特定の顧客との契約によっては、就労開始前に労働者の就労適性を確認する必要があります。必要であれば、産業医が実施する医学的評価によって職務への適合性が確認される必要があります。

5.11.2 作業上の危険源に対処するための適合性

すべての労働者は、ビューローベリタスでの作業を行う前に、職務への適合性を満たしている必要があります。職務への適合性を満たしていない、特に肉体的または精神的に負担のかかる仕事の場合、自分だけでなく、他者にも危険をおよぼす可能性があります。就労に適格ではないと宣告された労働者は、ビューローベリタスでの仕事を引き受けてはなりません。

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

6 集団用保護設備および個人用保護具

6.1 集団用保護設備

落下防止

高所での作業において、床面が安全であることが確定されている状態で、落下の危険性を伴う作業を行う場合、現場の責任者は以下の選択肢からいずれか 1 つを選択する必要があります。

- 立ち入りゾーンの制御
- ガードレール
- 個人用墜落制止用器具

企業/事業所への訪問者（あなた）は、雇用主の定めるポリシー、手順、トレーニング要件に従う責任があります。すべての落下防止システムは、2 つの基本機能のうちいずれか 1 つを果たし、労働者の落下を防止・抑制するか、もしくは労働者の落下を安全に阻止・抑止します。これらの保護システムには、ガードレール、落下防止ネット、個人用墜落制止用器具、警告線、安全監視システム、立ち入りエリアの制御などがあります。

ガードレールシステム

ガードレールは、労働者を傷つけたり、労働者の衣類に引っかかったりするものがいっさいない状態でなければなりません。現地の規制によってガードレールの最低限の高さと強度が定められています。ガードレールの性能に不安がある場合は、ガイダンスを参照し、安全を脅かすような行動は避けてください。

セーフティネット

セーフティネットは一般的に用いられる抑止システムであり、作業を行う面の下のできるだけ近い位置に設置することになっています。その際、作業面からの距離が 10m を超えないようにする必要があります。

警告線システム

警告線システムは、危険区域への立ち入りを防止するためのものです。ロープ、ワイヤー、チェーンのいずれかと、それを支える支柱からなり、次のような構造をとります。目立つ素材を用いて注意を喚起するようにし、もっとも低い位置（たわみを含む）に支柱を装着します。このようにして、1 本ずつ支柱を装着していき、隣接する区間に入りこんで警告線がたるむことがないようにします。



タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

6.2 個人用保護具（PPE）



PPE 個人用保護具

必要な PPE の着用はビューロー・ベリタスの安全に関する基本的な事項です

- PPE の目的は、他のすべての安全バリアが施された後に、作業者が残存する危険源にさらされることを減らすことです。PPE は、あなたを守る最後のバリアです。
- 適用される PPE を例外なく使用する
- PPE の例としては、安全靴、ヘルメット、聴覚保護具、ボイラーズーツ（オーバーオール）、安全眼鏡、手袋などがある。
- グループポリシー 105-PO が具体的な詳細を示している。

産業環境またはラボエリアに入る際には、次のことを行う必要があります。

- PPE の使用が必要な場所を示す、作業環境の文書化された危険有害性評価を確認します。
- 必要な PPE を準備したうえで、それらの PPE が労働者の体に適合し、清潔かつ信頼できる状態で利用・保守が行われるようにする。
- 保護具が適切なものであり、かつ正しく保守され、清潔に保たれていることを確認する。

産業界では多種多様な PPE が幅広く利用されています。種類に関係なく、あらゆる PPE は、労働者が遭遇する可能性のある危険源からの追加的な保護を提供する設計となっています。

一般的なルールとして、最低限、適切な保護服（オーバーオール、ボイラーズーツ（つなぎ服）など）、ヘルメット、安全メガネ、保護手袋、安全靴を着用する必要があります。**必要な PPE を着用することはビューロー・ベリタスの安全に関する基本的な事項です。協力検査会社等は、独自の個人用保護具に関する手順、教育訓練計画を定める必要があります。次の一般情報は、情報としてのみ提供されており、協力検査会社等が法的要件を満たす PPE プログラムを導入する必要性に代わるものではありません。**

このハンドブックで取り上げる PPE の種類は次のとおりです。

- 頭部の保護
- 足の保護
- 目の保護
- 手の保護
- 呼吸器の保護
- 聴覚保護

PPE は怪我を防ぐ第一の手法として設計されたものではありません。エンジニアリング、作業慣行、および/または管理的対策が、潜在的な事故からあなたを守るための第一の手法なのです。PPE は作業現場での労働者の

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

安全と健康を確保するために、これらの管理と組み合わせて（代わりにではなく）使用する必要があります。作業に適した PPE を選択することが重要です。

6.2.1 目の保護

6.2.1.1) 目の損傷

以下の物質・物体への暴露によって、目に損傷を受ける可能性があります。

- **粉塵、粉末、ヒューム、ミスト**は目の角膜に損傷を与える可能性があります。角膜は、傷が付いたり、化学物質によりさまざまな影響を受ける可能性があります。角膜が濁り、白内障を発症すると、視力が著しく低下することになります。
- **有毒なガス、蒸気**、液体は眼の組織に損傷を与えるだけでなく、体内に吸収される可能性もあります。
- **飛散物や粒子** 眼の角膜に損傷を与えたり、角膜の中に入り込む可能性があります。
- **レーザーを含む熱および放射線の危険源：** 熱と放射線（溶接やレーザーによるものなど）は、たとえごく短期間の暴露であっても、目に損傷を与える可能性があります。放射線被爆の場合、損傷を受ける眼の範囲と場所は、暴露時間と放射線の波長によって変わってきます。

6.2.1.2) 保護具の選択

眼、顔、あるいは顔と眼の両方を保護する保護具は、特定の危険源を想定した設計となっています。保護具の選択にあたっては、危険源の種類と深刻度を考慮する必要があります。

適切な選択に役立つガイドラインを以下に示します。

- **保護眼鏡** 眼を保護するためのものであり、標準では、飛翔体からの保護を目的とした設計となっています。耐衝撃性のレンズとフレームが使用されており、通常の眼鏡よりもはるかに強固な作りになっています。サイドシールド（側板）を装着することで、横から噴射物等が入りこむのを防ぐことができます。矯正レンズが必要な場合は、度付きの安全メガネもあります。
- **スプラッシュゴーグル** 液体のはねが眼に入るのを防ぐと同時に、衝撃を遮断する設計になっています。ゴーグルには直接または間接の通気システムが備わっており、液体はねの危険源にさらされている場合、間接通気の方がよりしっかりと保護することができます。保護ゴーグルは保護眼鏡や度付き眼鏡の上から装着することが可能です。
- **フェイスシールド** 顔を保護するためのものであり、国によっては、フェイスシールドとあわせて保護眼鏡や保護ゴーグルを装着することが義務付けられています。
- **フィルターレンズ**とプレートは、レーザー光線や紫外線（UV）から眼を保護するためのものであり、適切なフィルターを選択することが重要になってきます。1種類のフィルターだけではすべての波長の放射線を防ぐことはできません。メーカーのアドバイスを受け、適切なレンズを選ぶようにしてください。

眼の保護具は、最低でも以下の要件を満たしている必要があります。

- 対象となっている特定の危険源から眼をしっかりと保護すること

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

- 一定の条件下で快適に装着できること
- ぴったりとフィットし、装着者の動きや視界を妨げないこと
- 耐久性があること
- 消毒が可能であること
- 容易に洗浄できること
- 清潔に保たれ、手入れが行き届いていること
- すべての保護具は、メーカーを容易に特定できるよう、マークが表示されている必要があります

点検・保守

眼の保護具は、清潔な状態を保ち、清潔な場所に保管しなければなりません。 汚れたレンズでものを見続けていると、眼精疲労を引き起こす可能性があります——眼精疲労を理由に眼保護具を装着しないというケースも少なくありません。日々の点検と共に、石鹼と湯もしくは清浄液とティッシュを使ったクリーニングが推奨されます。汚れたレンズなど、手入れの行き届いていないレンズは、視力が低下する原因になります。

6.2.2 頭部の保護

6.2.2.1) 保護具の選択

各種の頭部保護具は、特定の危険状況から頭を保護する目的で設計されています。これらの状況について理解することで、その時々に応じた正しい保護帽を選択しやすくなります。保護帽にはさまざまな種類・分類があります。その保護帽が意図する用途に合ったもので、現地規制に準拠していることを事前に確認したうえで使用するようにしましょう。

ヘルメット/保護帽は基本的にシェルとサスペンションで構成されています。 ヘッドバンドとシェルとの空間が通気口の役割を果たします。ヘルメットには、サスペンションとヘッドバンドの調整・交換の適切な方法について述べた取扱説明書を付けることが義務付けられています。また、装着者がシェルの内側を見て、どのメーカーのヘルメットであるかを特定できるようになっている必要があります。

ヘルメットにはメーカーにより年数が刻印されており、推奨使用期限（例：5年）を過ぎないうちに交換する必要があります。

6.2.2.2) 点検・保守

塗料や溶剤のなかには、シェルの強度を弱めたり、電気抵抗を取り除くものがあります。これらの塗料・溶剤はシェルの損傷や保護機能の低下を招く可能性があることから、使用に際してはメーカーに問い合わせる必要があります。一般的な洗浄法は、良質な洗剤を溶かした湯に1分以上つけた後、シェルをこすり、きれいな湯ですすぐというものです。すすぎ終えたら、損傷の兆候がないか、細かく点検するようにします。

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

すべての部品——シェル、サスペンション、ヘッドバンド、スウェットバンド、その他のアクセサリ——を毎日、目視で点検し、へこみ、欠け、異物の浸透など、安全性の低下につながる損傷の兆候がないことを確認する必要があります。

ヘルメットは日の当たる場所や高温な場所を避けて保管するようにしてください。このような状況はヘルメットの保護機能に悪影響を与える可能性があります。

6.2.3 足の保護

6.2.3.1) 保護具の選択

落下物や回転物、鋭利な物体、溶融金属、高熱面、滑りやすい濡れた面から足と脚部を保護するには、適切な足保護具、安全靴、脚絆（ゲートル）を使用する必要があります。脚絆は、溶融金属や溶接火花から脛と足を保護します。耐熱底のついた靴は、屋根ふき、舗装、溶接などの業界で見られる高温の面から足を保護するためのものです。また、刺し傷を防止するために、金属製の内底が使われている靴もあります。安全靴は、皮/ゴム製のブーツなど、さまざまなスタイルと素材のものが販売されています。

- **安全靴**— 衝撃や圧迫による怪我から爪先を保護するための靴。さまざまな素材やスタイルのものが販売されており、感電や踏抜きを防止するものもあります。衝撃や圧迫に対する強度もさまざまですが、かならず爪先部分がスチールか同等の強度の素材で保護されている必要があります。
- **足甲プロテクター**— 爪先につながる細長い足の骨を保護するためのカバー。通常、保護靴（靴またはブーツ）と組み合わせて使用されます。
- **耐薬品靴**— 特定の化学薬品や化学物質群から足を保護するための靴、ブーツ、カバー。すべての化学物質に対する耐性を持つ素材は存在しません。防御対象となる化学物質の種類に応じて、耐薬品靴を選択する必要があります。
- **耐滑性**— 油でぬるぬるした床面や濡れた床面でも滑らないように設計された靴またはブーツ。滑りにくい靴を選ぶ際には、靴を着用することになる床面の種類と、床面を滑りやすくしている物質（水か油か）を考慮に入れる必要があります。
- **耐熱靴**— 高熱から足を保護するための靴またはブーツ

6.2.3.2) 点検・保守

- 日々の点検により、損傷がないことを確認する
- 擦り減ったり、欠陥のある靴は修理/交換を行う
- 靴ひもが擦り切れていたり、長すぎたりしないか、確認する
- 濡れたり湿ったりしている靴は着用しない
- 清潔な場所に保管し、損傷から保護する

6.2.4 手の保護

6.2.4.1) 保護具の選択

タイトル：	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン：	09
		改定日：	2023年10月

さまざまな危険状況から手を保護するために、多種多様な手袋、ハンドパッド、アームスリーブ、リストレットが販売されています。

手袋には多くの種類があり、以下のようなものがあります。

- **綿手袋**：小さな切り傷・擦り傷から手を保護します。
- **革手袋**：硬くざらざらしたものを扱う際に、切り傷、擦り傷、打撲傷から手を保護します。
- **耐薬品手袋**：天然/人工ゴムやビニールなどの素材で作られ、特定の化学物質から手を保護します。すべての化学物質に対する耐性を持つ素材は存在しません。適切な素材の手袋を着用するようにしてください。
- **アルミ手袋**：熱から手を保護します。
- **スチールメッシュ手袋**：切り傷に対する限定的な保護を提供します。
- **電気絶縁手袋**：感電を防止します。

6.2.4.2) 点検・保守

着用前に毎日点検を行い、損傷がないことを確認します。 損傷の兆候には以下のようなものがあります。

- 傷
- 裂け目（特に指と指の間）
- 穴
- 変色
- ごわつき
- 異物の付着
- ゴム手袋に空気を入れて膨らませることで、穴が開いていないかどうかチェックできる

手袋は、風通しの良い収納ボックスや棚などに、直射日光を避け、室温で保管します。適切な手順で洗浄し、化学薬品を完全に取り除いてから保管するようにしてください。

個人用保護具を効果的に利用するには、意図する用途に応じて保護具を選択し、正しい認識を持ち、保護具の点検、保守、着用を適切に行うことが前提となります。

ビューロー・ベリタスのすべてのスタッフと協力検査会社等は、身近に存在し得る危険源の種類について正しく認識し、個人用保護具の正しい使用法など、とるべき適切な行動について知っておく必要があります。

適切なPPEを持たない場合は、いかなるサービスも実行してはなりません。

タイトル :	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン :	09
		改定日 :	2023年10月

6.2.5 聴覚保護

6.2.5.1) 聴覚保護とは何か

聴覚は人体の最も重要な感覚の1つです。よって、その重要性を心に留め、保護のための方策を講じる必要があります。

発せられるすべての音は、一定の振幅/音圧を持ちます。しかし、すべての音圧レベルが聴覚にとって有害と見なされているわけではありません。

一般的には、85dB を超える場合に、悪影響を

与える可能性があると考えられています。しかし、このレベルでは痛みを感じることはありません。**通常、120dB を超えたあたりから痛みを感じるようになります。**

さまざまな音のレベルをまとめた表を見ると、dB は線形尺度でないことがわかります。dB は対数尺度であり、3dB 増加するごとに音圧は2倍になります。

つまり、83dB は80dB の2倍の音圧があることになりませんが、人が2倍のうるささを感じるには、約10dB の音量の増加が必要です。このことは重要な意味を持ちます。なぜなら、騒音レベルが85dB を超えると、適切な聴力保護具を装着することの重要度がさらに増すからです。

Common dB Levels	
Whisper	20 dB
Chirping Bird	30 - 40 dB
Office Sounds	40 - 60 dB
Normal Conversations	50 - 60 dB
City Traffic	70 - 90 dB
Vacuum	80 - 90 dB
Music Head Phones	70 - 90 dB normal hearing level - 115 dB "cranked"
Lawn Mower	90 - 100 dB
Car Racing	100 - 110 dB when seated close to the action
Circular Saw	100 - 120 dB
Jack Hammer	100 - 120 dB
Rock Concert	100 - 130 dB
Shotgun	120+ dB

6.2.5.2) 聴覚保護に関する危険源

騒音は、以下の2種類の難聴に関連しています。

■ 一過性難聴

- 一過性難聴は高レベルの騒音（ロックコンサートなど）にさらされることにより生じます。
- 騒音にさらされる状態が解消されれば聴覚は回復し始めますが、完全な回復には数時間から、場合によっては数日かかります。
- 大きな音は蝸牛有毛細胞の一時的な障害を引き起こします。

■ 永続的難聴

- 高レベルの騒音にさらされる状態が続くと、時間の経過と共に徐々に難聴が進行します。
- 日常活動に支障をきたすようになってはじめて、難聴に気付くことになります。
- 繰り返し騒音にさらされることによって蝸牛有毛細胞が損傷され、徐々に死滅していきま

6.2.5.3) 防止策

聴力保護具を使うことで、**暴露する騒音の量を減らすことができます。**85dBを超える騒音にさらされる場合、聴力保護具の使用を検討する必要があります。

聴力保護具の選択で求められるのは、作業に合ったものであること、適切なレベルの保護を提供すること、快適に装着できることです。これらの基準に合った聴力保護具を提供することは、雇用主の責任となります。一般的な聴力保護具としては以下の3つがあげられます。

■ 耳栓 :

タイトル :	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン :	09
		改定日 :	2023年10月

- 外耳道をふさぐ目的で挿入
- 成形済みのもと成形可能なものがある（発泡プラスチック製やシリコン製のものなど）がある
- 使い捨てのものと再利用可能なものがある
- 自分に合った形の耳栓を作ることも可能



■ **カナルカップ :**

- しっかりとしたヘッドバンドにより、外耳道の終端部分に耳栓を固定
- 軽量で、一時的な利用に適している






■ **イヤーマフ :**

- 遮音性のあるマフ。しっかりとしたヘッドバンドで柔らかなイアー Cushion を固定する構造になっている
- 必要に応じて、ヘルメットに装着できるタイプのものを選ぶことができる
- さらに強力な保護が必要な場合は、耳栓と併用することも可能



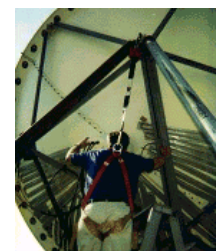
聴力保護具には、それぞれ長所と短所があります。以下の表は、耳栓、イアーカップ、イヤーマフの長所と短所をまとめたものです。

			
長所	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さくて持ち運びが簡単 ● 他の PPE と併用するのに便利 ● 高温多湿な環境でも快適に利用できる ● 閉鎖空間での使用に便利 ● 単価がもつとも安い 	<ul style="list-style-type: none"> ● イヤーマフよりも持ち運びが簡単 ● 遠くからでも見つけやすい ● 耳栓よりも装着しやすい ● 一時的な利用に適している 	<ul style="list-style-type: none"> ● 最も装着が簡単 ● 遠くからでも見つけやすい ● 紛失しにくい ● 軽度の耳感染症がある場合でも装着が可能
短所	<ul style="list-style-type: none"> ● 正しく装着するのに時間がかかる ● 清潔に保つ必要がある ● 外耳道に違和感が生じる可能性がある ● 紛失しやすい ● 見えにくく、使用状況の監視が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 装着にある程度時間がかかる ● 耳栓ほど携帯が容易ではない ● 一般的に、耳栓やマフよりも保護力が弱い ● マフよりも清潔に保つのが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ● 重量があり、携帯しづらい ● 他の保護具との併用が難しい ● 暑くて装着できない場合がある ● 保護眼鏡の着用を妨げる可能性がある

6.2.6 落下防止

● **個人用墜落制止システム**

個人用墜落抑止システムは、高所の作業場からの落下を抑止するのに用いられ、体全体を支えるハーネス（装着帯）、ランヤードまたは命綱、1つ以上の固定金具で構成されます。これらのシステムは、落下距離を2m未満に抑える設計になっています。2m落下した場合、最大で体重の10倍の衝撃が保護システムにかかるとされています。墜落制止システムを使用する必要がある場合は、ハーネスの装着に熟達した人に付き添ってもらい、安全な状況で使用するようにしてください。なお、国によっては、墜落制止システムの定期的な点検と認証が義務付けられている場合があります。



タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

7 現場で

ビューロー・ベリタスの契約に基づいて作業を行う前に、すべての協力検査会社等/外部個人検査員等は、独自のHSSE評価を実施する必要があります。ビューロー・ベリタス「安全のための2分間」チェックリストまたは同等のものを使用することをお勧めします。以下に「安全のための2分」の概要を示します。



安全のための
2分間

「安全のための2分間」はビューロー・ベリタスの安全に関する基本的な事項です

リスクを特定し、管理する。2分間の安全チェックリストを使って、周囲の状況を確認する。

7.1 作業の準備

業務の目的に従い、次のことを確認します。



- 現場で何を行うのか
- 現場連絡先の**名称・電話番号**
- **適切なPPE(個人用保護具)**をもち、それらは良好な状態であること
- 仕事をするために必要な**許可証/免許証**をもっていること(許可証、閉鎖空間への入場許可証など)
- どんな**順序や計画**で行うのがよいか
- チームでの作業を行う場合、チームのうち一人を安全担当者とする

その仕事を安全に行うために必要な情報は全て把握できているか？

7.2 現場に到着したら



- 防犯ゲートにて入場手続きを行い、現地の担当者と連絡をとる
- 正しい個人用保護具を装着する
- 仕事を行う場所への案内を依頼する
- 全般的な安全・危険回避について必要な情報を確認する
 - 特別な危険
 - 避難経路
 - 応急救護所
- 次のことを確認する
 - 仕事場所への行き方と通行規則
 - 仕事場所に潜む危険

業務環境にある危険には、
全て対処なされているか？

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

7.3 危険源を見つける (安全のための 2 分間)

作業を開始する前に、以下の事柄をチェックし、作業環境の安全性を確認しておくようにします。

はい/いいえ

危険源

- 必要な機器と電源は絶縁されていますか
- 作業許可が必要な場合 (例: 高所作業等)、取得していますか
- 工具と機器は良い状態でタグ付けされていますか
- 作業環境において、必要な機器 (車両、コンベヤ、その他) がすべて隔離されていますか
- 歩行面は、スリップ、つまずき、落下の危険がありませんか
- 作業に適切なバリケードが設定されていますか
- 誰かが頭上で作業する際、落下物から保護されていますか
- 他のグループの活動についてコミュニケーションを取りましたか

個人の健康

- この作業に従事するのに健康上問題はありますか
- 作業に力仕事に伴う際、対応するための装備を着用していますか
- 適切な保護具を着用していますか

条件

- 過酷な気象条件下で業務をする場合、それに対応する手段が整っていますか
- 検査する機器の使用に精通していますか

「いいえ」があれば、対処が必要

7.4 仕事中

- 一般的な安全規則と顧客の安全規則を尊重する
- 業務環境の起こり得る変化にも注意する
- 急激な変化に気づき、安全や業務に影響を与える可能性がある場合:
- **自分の安全のために 2 分間を使います**
 - 業務を中止し (作業中止権限)
 - 顧客に伝達し
 - 危険がないか、再度確認する
- 顧客と連絡が取れない状況であれば、ビューロー・ベリタスに連絡し指示を仰ぐ

危険の分析に 2 分間使うことは、事故を起こすよりもよいことです!

自分の安全を考えることは、あなたの権利であり義務でもあります!

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

7.5 作業終了後

- 備品をきれいにし、保管場所に返却する
- 仕事場が整頓されていることを確認する
- 交換が必要な安全衛生保護具があればそのことを伝える
- 顧客に検査場所を離れることを伝える
- 次のような現場での作業中に観察された危険な状況や危険について、**現場およびビューローベリタス 管理者に通知する**
 - 危険な状態
 - 軽微な事故
- この情報は、業務を行っている現場の危険予防措置の改善に役立ち、さらにはすべての活動の安全に役立つこととなります。



ご質問やご意見がございましたら、ビューローベリタス安全管理者までご連絡ください。

7.6 緊急時または怪我の場合

- すぐにビューローベリタスの担当者に通知してください
- 直後に顧客の担当者に通知し、緊急対応手順に従ってください (該当する場合)
- 可能な場合は、Maia アプリで事故を報告してください。

死亡事故や休業の有無にかかわらず事故が発生した場合は、直ちにビューローベリタスの担当者に連絡することが義務付けられており、担当者はビューローベリタスの HSSE マネージャーに報告します。

事故の概要を書面でできるだけ早く (2 日以内) ビューローベリタスに提出する必要があり、完全な調査報告書も事故発生後 10 日以内に提出する必要があります。このレポートには、事故と根本原因に関連するすべての詳細と情報が含まれます。ビューローベリタス担当者は、社内の事故報告手順に従ってビューローベリタス調査報告書と根本原因分析を作成する必要があります。

検証:

	提案	検証	承認
氏名	Vicdan UZUNOGLU	Servane Collier	Paulo BALAGUEIRAS
役職	Group Safety and Security Manager	Group QHSE Director	Group QHSSE VP
日付	2023/07/19	2023/11/09	2023/10/16

タイトル:	協力検査会社/外部個人検査員等向け労働安全衛生・環境ハンドブック	バージョン:	09
		改定日:	2023年10月

8 同意書

ビューロー・ベリタスの要求事項の理解と承諾の確認

私は、本ハンドブックの内容を読み、理解したことを宣誓します。質問がある場合は、ビューロー・ベリタスの担当者に説明を求めます。

ビューロー・ベリタスの協力検査会社/外部個人検査員等として職務を遂行する際、安全、セキュリティ、プロフェッショナルリズムの最高水準で業務を遂行するため、本ハンドブックに詳述されている要求事項および参照情報を適用することをここに誓約します。

その際、私は、ビューロー・ベリタスに、協力検査会社/外部個人検査員としての契約を裏付ける以下の書類の有効な写しを提出します（法人の場合は担当者のもので、以下、個人に関する内容について同じ）。

- 最新の職務経歴書/履歴書
- （自動車を運転する場合）運転免許証/車検証/任意保険の写し
- 割り当てられた作業（電気工事、高所作業など）に必要なその他の資格を有することを証明する書類（該当する場合）の写し
- 海外出張の協力検査会社/外部個人検査員等は、医療保険の保険証書の写し

また、必要な場合には以下についても都度提出します。

- 勤務適性に関する声明
- 業務遂行可能な視力を有していることを証明する文書（過去12か月以内）
- 賠償責任保険証明書の写し

私は、このハンドブックに記載されている情報に従って、該当するすべての個人用保護具（PPE）について適切に機能しており有効期限内にあるものを保有し、必要な場合には常に使用しなければならないことを理解しました。

私は、毎年健康診断を受診し、または受託業務の担当者に受診させ、業務遂行に関して健康上の適格性を保持していることを誓約します。

業務遂行にあたっては、日々の健康管理および健康状態のモニタリングを適切に実施し、精神および身体的状況が業務遂行に問題がないことを確認した後に、業務を遂行します。万一、健康状態等の変化により業務遂行に支障をきたす可能性がある場合には、速やかにビューロー・ベリタスの担当者に申し出ます。

法人名・氏名 及び 署名または押印	日付